



訓
幼字義

續
群書類從
教育部

中山閱了

口仁13
1.620
1



1620
14



訓幼字義序

學將以盡人之所以為人之道也。人苟於日用彝倫之間，能盡其道，則雖曰未學，尚謂之已學矣。况玩聖人之志，意通儒先之訓，解略了悟，大義則亦可以已。

訓幼字義

造造齋藏

何必章梳句爬屑三焉救其異
 同離合於錙銖物忽之皆乎哉
 然先讀聖賢之書則當審其所
 謂仁是指何物所謂義果言何
 事而後不迷其所嚮方為從聖
 已徂激言不明先儒雖窮力講
 明而曰探索之甚密而致矯枉
 之過直所謂仁也而仁不同所
 謂義也而義不同此所以學有
 古今之變也先君子服膺先儒
 之成說二十餘年初而修中而
 斲終而豁然以悟聖人之道不

子曰用彝備之間不可向此上
 面別求一種道理立言若書誘
 進後生亂不肖生三十六年而
 先子見背守喪業責在後人
 管窺貂續亦稍有書然詞既欠
 明後亦云弘加之方語之不同

教輒生之難曉於是援語孟字
 義條款稍加隙括演以國語名
 之曰訓幼字義若夫五經大義
 則當別其故概而弗及起等於
 丁酉之夏初而脫藁於臘月之
 以泮告類凡二十六告條凡三

百二十六其增損改潤出^尚誤^保他

日云尔時享保二年冬日

伊藤長胤撰



訓初字義目錄

伊藤氏學

卷之一

天道

天命

卷之二

道

德 理

卷之三

仁 仁義 禮 智

卷之四

中 誠

忠 信

忠 恕

恭 敬

權

卷之五

云積善之家必有余慶積不善之家必有余殃。げんじの経書の
 うちにあまごつたり。然れども古そのこと考ふる。善人の徳を清
 て不仕合よき。或ハ刑罰より家の類。おけり。計くず。決
 又悪人の仕合より。門戸とまわり。子孫繁昌ありたけ。
 ち何れぞいふこととまら。決。是。是。いふ。て。なる。是。邪。非。邪。と
 つのうごひあり。司馬遷の伯夷の傳のまこと。意。通。帝。は。この
 ちい。ま。あり。その。て。なる。と。せ。つ。か。ひ。ひ。能。人。の。と。し。と。揚。り
 て。ま。く。さ。ら。ふ。ら。う。け。い。さ。い。あり。を。上。人。の。と。ま。あ。れ。け
 て。ま。く。と。論。ぶ。る。あ。る。い。あ。ら。う。る。ま。り。能。人。の。人。の。い。ら。う
 くと。ま。く。と。言。ふ。服。目。と。い。く。廣。く。と。し。と。示。さ。れ。る。を。れ
 かれた。福。善。猶。深。の。ま。り。ま。お。た。ら。う。の。あ。り。

千石の積。一人の上。控。く。入。る。う。た。い。た。う。や。あ。れ。と。
 千石人の一人は。一。て。あ。れ。と。入。れ。た。う。の。た。う。一。財。の。ら
 け。ら。う。の。人。は。た。う。や。あ。れ。と。も。千。石。せ。や。あ。れ。と。て。あ。れ。と。入
 れ。ば。さ。う。と。あ。り。て。ま。り。ま。い。ま。は。ま。は。ま。の。か。ら。く。と。い。く。一
 財。の。た。う。の。人。は。は。わ。り。入。る。う。た。い。た。う。の。控。の。物。と。い。ふ。
 が。い。く。か。屋。の。た。び。と。い。く。と。い。く。控。の。ま。り。あ。る。あ。れ。と。う
 ら。う。あ。れ。と。も。あ。り。百。石。の。ま。り。と。も。と。ち。い。あ。り。老。子。曰。
 大。網。恢。恢。疎。不。失。也。老。子。の。大。網。の。書。た。ら。い。も。け。い。ま。あ。り
 け。い。ら。あ。り。て。ま。り。た。ゆ。う。あ。り。や。う。あ。れ。と。ち。い。あ。り。と。い。く
 け。い。と。い。く。い。あ。り。控。の。せ。の。人。一。人。の。ま。り。あ。り。て。ま。り。と
 入。る。あ。り。と。い。く。ち。い。あ。り。う。た。い。た。う。の。ま。り。あ。り。と。い。く。

ありしつ。春秋の強家。六の従りつと多し。被れども
 中のでくてもなるといひつれ。或の合ひ或ありと。人の惑
 とひさして。人いひて。あまらゆらむるふらむのさるくと生れ。何
 どあし。いし。堯に九年のああり。湯に七年の早あつて。聖王の世
 には事^{災異}まをすむらむと。後世漢の諸帝の代も。聖王の世
 麒麟鳳凰^等の瑞物。まづ。史策にあらはれども。聖王の世
 ごとく。一人の上はさても^{其通}まはして。ゆきて。災^災ふさむのあれ
 ごとく。不^不招^招象^象のふあ^不又^又惑^惑ふらむと不思議の奇瑞と象
 ぶあ^ぶあらはらるのゆ^ゆ皆^皆は^はせ^せらるる多し。そのゆ^ゆ人^人書^書被^被ふ
 災^災まを^まと^とさ^さして。幸^幸意^意と^とし^しと。論語に。子^子る^る諸^諸怪^怪カ^カ礼^礼律^律
 といひ。律^律といひ^{災異}災^災異^異祥^祥瑞^瑞の多^多とい^いあら。被^被ふ^ふ災^災の^の風^風も
 至^至河^河不^不生^生圖^圖とい^い何^何ぞや。是^是の^の風^風至^至河^河の^の類^類い^いた^たら^らる^る聖^聖王
 世^世と^と清^清の^の瑞^瑞お^お言^言つ^つて^てさ^さら^らる^るあ^あつ^つて^てあ^あれ^れと^とら^られ^れ。聖^聖王^王の
 時^時ふ^ふお^おさ^さら^らる^ると^と歎^歎息^息た^たま^まふ。聖^聖王^王世^世ふ^ふお^おさ^さら^られ^れは
 必^必祥^祥瑞^瑞あ^あら^らる^るふ^ふあ^あら^られ^れ。聖^聖王^王と^とさ^さら^らる^ると^とい^い常^常い^いら^らる^るあ
 上^上ふ^ふお^おさ^さら^らる^るい^い

先^先人^人常^常い^いら^らる^ると^とい^い必^必被^被之^之也^也。人^人の^の自^自取^取之^之也^也。善^善ふ^ふさ^さら^らい
 る^るい^いふ^ふ不^不瑞^瑞と^とい^い。と^とい^い必^必被^被之^之也^也。中^中と^とい^いか^かと^とい^いた^たれ^れの^の理^理
 にあ^あら^られ^れ。被^被も^もあ^あら^られ^れと^とい^いら^らる^るい^いら^らる^る。か^かあ^あら^られ^れ人^人の^の上^上に^にお^おわ^われ^れ
 され^れと^とい^いら^らる^る。書^書の^の大^大誥^誥に^にい^いふ^ふ。天^天視^視自^自我^我民^民視^視。天^天視^視自^自我^我民^民。
 被^被也^也。又^又云^云。民^民之^之所^所歎^歎。天^天必^必災^災之^之也^也。即^即こ^この^の意^意あり^り。ま^まこ^こ孟^孟子^子に^に舜^舜の^の
 る^ると^とい^いら^らる^る。又^又云^云。天^天災^災之^之也^也。善^善章^章と^とい^いと^と終^終す^す。天^天災^災之^之者^者皆^皆

所謂命ハ皆氣の命なり。程の命と云ふは、
 先傷の説より、陰陽流行の氣也。或る言ふは、
 此れと主宰の程あり。此れと命の流行して物に賦
 與するもの。人よありて人の仁義礼智の性あり。されど程の命
 と云ふは、十知を命と云ひて、命之謂性とのまのたらし。何も
 程の命と云うて人の氣は、就ていふは、
 多富貴、然其壽、獨福の志。人のけやうは、
 上。就ていふ。死生有命と云。莫能命と云。人の類あり。
 或る一般の人の智慧賢不肖性のけやうは、
 就ていふ。仁之於父子、孝之於親、此れあり。此れを
 氣の命と云ふ。是朱子の説より、
 小論せら。宋儒理の命氣の命の説、大略かくのごとし。
 先儒理一分殊の説と云ふは、
 此れ人の故、
 のさあ、
 命に程の命氣の命と云。性よ、
 けあり。性をも聖賢の書と考ふる。何と氣と説く。性と
 云ふは、
 肩は、
 先傷のさして程の命と云ふは、
 兼註よ。云。命即ち乃之流行、
 出當之故也。如此則知性之精而不惑、又不足言矣。と云

此れ人の故、
 のさあ、
 命に程の命氣の命と云。性よ、
 けあり。性をも聖賢の書と考ふる。何と氣と説く。性と
 云ふは、
 肩は、
 先傷のさして程の命と云ふは、
 兼註よ。云。命即ち乃之流行、
 出當之故也。如此則知性之精而不惑、又不足言矣。と云

